

2018年第3四半期の業績

2018年第3四半期の税引前利益は前年同期比38%増の8億5,600万CHF — 2018年の目標達成に向け順調に進捗

第3四半期のハイライト

- 第3四半期の調整後ベース*税引前利益は前年同期比38%増の8億5,600万CHFとなり、調整後ベース*では2014年以来の最も堅調な第3四半期となりました。税引前利益は同68%増の6億7,100万CHFとなりました。
- 四半期の調整後ベース*費用は過去5年間で最低を記録し、調整後ベース*営業費用を2018年末までに170億CHF¹未満とするという基本目標の達成に向け順調に進捗しています。2015年末以降の累積純費用節減額は40億CHF¹で、目標費用節減額合計の96%に達しています。
- 調整後ベース*の利益は10四半期連続、また、前年同期比では8四半期連続の増加となりました。
- ウェルス・マネジメント事業の第3四半期の新規純資産は103億CHF増と堅調に増加し、第3四半期のウェルス・マネジメント事業とアセット・マネジメント事業の新規純資産合計は前年同期比29%増の148億CHFとなりました。
- ウェルス・マネジメント事業の運用資産は前年同期比4%増の7,850億CHFと過去最高を記録しました。第3四半期末現在の運用資産合計は同5%増の1兆4,000億CHFとなりました。
- インベストメント・バンキング & キャピタル・マーケッツ (IBCM) 部門の純収益は米ドルベースで15%増の5億4,300万ドルとなり、5%減となった市場²をアウトパフォームしました。これは、2015年に当社が定めた戦略を実施したことで、M&Aおよび株式資本市場事業が堅調であったことによるものです。
- 第3四半期の株主帰属純利益は前年同期比74%増の4億2,400万CHFとなりました。
- 資本基盤は強固で、ルックスルーCET1比率は2018年第2四半期末の12.8%から12.9%に上昇しました。ハイトリガーのティア1資本証券59億CHFを繰上償還し、ハイトリガーのティア1証券の低コストでの発行に成功したことで、ルックスルーのティア1レバレッジ比率は5.1%となりました。

9カ月間のハイライト

- 年初来9カ月間の調整後ベース*税引前利益は、前年同期の22億CHFから53%増の33億CHFとなり、調整後ベース*では2014年以来最も堅調な9カ月となりました。9カ月間の報告ベース税引前利益は28億CHFとなりました。
- ウェルス・マネジメント事業の年初来の新規純資産は338億CHFで、年初来9カ月間では2013年以来の最高水準を記録しました。年初来9カ月間のウェルス・マネジメント事業とアセット・マネジメント事業の新規純資産合計は前年同期比6%増の553億CHFとなりました。
- ウェルス・マネジメント関連事業の収益性は2015年の水準から大幅な変化を達成しており、2018年初来9カ月間の調整後ベース*の税引前利益は、3年間で60%増³の37億CHFとなりました。
- 年初来9カ月間の株主帰属純利益は前年同期比54%増の18億CHFとなりました。

クレディ・スイスの最高経営責任者(CEO)、ティージャン・ティアムは次のように述べています。

「2015年末に事業再編に着手した際、主な目的は3つありました。(i) 明確で緊急性のある幾つかの問題、すなわち資本基盤、リスクの絶対水準、高い固定費に対処すること、(ii) 持続可能で、コンプライアンスに沿い、かつ収益性の高い成長をもたらす戦略を策定し実施すること、(iii) リスクとコンプライアンスの統制を大幅に向上させ企業文化を改善するための投資を行なうことが必要だったのです。

当グループは、統制が可能な手法に注力することで、市場の好調時には良好な業績を挙げ、市場が厳しい中では強靱性を維持できる営業モデルに向かって進むことを目指してきました。2018年はこれまでのところ進展を示すことができている。第1四半期と第2四半期は、市場が概ね良好で顧客の取引も活発だったため、堅調な業績を上げることができました。第3四半期は、市場環境がやや悪化し顧客の取引水準も低下しましたが、調整後ベース*の利益は第3四半期として2014年以来最高の水準を記録し、新たな営業モデルの強靱性を示すことができました。

この夏の環境は厳しいものでした。通常見られる季節的な減速に加え、市場参加者が米ドル金利正常化の影響、貿易の緊張や大きな政治的不透明感を懸念したことから、一部の新興国および新興国通貨ではボラティリティの上昇が見られました。これによって顧客の取引は低調となり、通常の予想された夏の減速が増幅されることとなりました。

こうした状況において、当グループの第3四半期業績は、引き続きプラスの営業レバレッジに支えられて、前年同四半期比で8期連続での増益となり、また年初来9カ月間の調整後ベース*の利益も前年同期比で53%増の33億CHFとなるなど、注目に値するものでした。

ウェルス・マネジメント・フランチャイズの拡大は当グループの戦略の中核的要素です。年初来9カ月間のウェルス・マネジメントの新規純資産は、2015年の同期と比較して67%増の338億CHFとなり、2013年以来の最高を記録しました。第3四半期におけるインターナショナル・ウェルス・マネジメント(IWM)部門内のアセット・マネジメント・セグメントの新規純資産は大幅に増加して45億CHFとなり、運用資産は前年同期比7%増の4,040億CHFとなりました。全体として、第3四半期のウェルス・マネジメント事業の運用資産は過去最高の7,850億CHF、運用資産合計は1兆4,000億CHFとなり、年初来9カ月間のネット・マージンは上昇しました。

当グループの資本基盤は強化され、ルックスルーCET1比率は第2四半期末の12.8%から第3四半期末の12.9%に上昇しました。レバレッジ状況は依然堅調で、ルックスルーのティア1レバレッジ比率は5.1%と、スイスの2020年のレバレッジ比率要件である5.0%を上回っています。これは、ハイトリガーCoCo証券59億CHFの取消不能の繰上償還による影響を完全に反映したものです。

2019年の見通しとして、ストラテジック・リゾリューション・ユニット(SRU)の縮小や資金調達および事業再編の費用削減など、当グループの統制が直接及ぶ範囲の施策による一層の利益改善を見込んでいます。これによって2019年の有形自己資本利益率は10~11%に上昇すると予想されます」。

見通し

世界貿易をめぐる地政学的緊張の継続や各国中央銀行の金融政策変更の潜在的影響にかかわらず、2018年第4四半期の世界経済の成長見通しは依然として良好です。第3四半期に市場心理は若干悪化しており、これは第4四半期も続くと予想されます。しかし、顧客との対話レベルは依然として高く、最終市場が前向きであり続けることを条件として、第4四半期には健全な取引パイプラインが完成すると見込まれます。

当グループのウェルス・マネジメント関連事業(スイス・ユニバーサル・バンク部門、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門およびアジア太平洋部門のウェルス・マネジメント&コネクテッド(WM&C)事業にわたっています。)は、第4四半期においても広域的で顧客主導の成長により利益を上げ続けると予想しています。これらの厳しさを増している市場において、当グループは、あらゆる種類のウェルス・マネジメントや投資銀行ソリューションを顧客に提供する統合的なアプローチと、安定性が高い年金のような収益の流れに注力することで、顧客の力となり、顧客が現在の環境を乗り切るだけでなく出現する投資機会を捉えることを支援するために優位性のあるポジションを保っていけるものと考えています。

事業再編プログラムを通じて今日までになされた進展の結果として、当グループは、2018年の目標である42億CHFを上回る累積純費用削減の達成に向けて順調に進捗しており、2019年以降についても、これまでに創出してきた営業レバレッジにより利益を得られるものと考えています。

第3四半期の概況

当グループのウェルス・マネジメント事業(スイス・ユニバーサル・バンク部門、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門、アジア太平洋部門のウェルス・マネジメント・アンド・コネクテッド事業内のプライベート・バンキング事業が含まれます。)では、第3四半期において引き続き純利息収益および手数料収益という、より安定的な収益源の拡大に集中的に注力しました。融資業務が好調を維持し、手数料を生み出す運用資産の拡大が続いていることによって、2018年初来9カ月間における同事業⁴のこれら2つの収益源は2015年同期と比較して12億CHF⁵増加しました(20%増、年平均増加率は6%)。同事業の第3の収益源であるトランザクション・ベースの収益は、収益の要素としては最小ではあるものの、変動性が高まり、2018年初来9カ月間の収益は2015年同期と比較して3%⁶減少しました。

この戦略は、第3四半期の厳しい環境においても、同事業⁴の純利息収益と経常収益は増加を続けていることを示しており、同事業の純収益は年初来で95億CHFに達し、2015年同期との比較では約11億CHF⁷上回っています。年初来9カ月間の当グループのウェルス・マネジメント関連事業の調整後ベース*利益は2015年通期を上回っており、その結果、同事業によって当行の収益性は変貌を遂げました。

事業の強みを発揮したことにより、インベストメント・バンキング & キャピタル・マーケッツ部門の第3四半期は特に好調でした。第3四半期の収益は米ドルベースで前年同期比15%増の5億4,300万ドルとなり、調整後ベース*税引前利益は67%増の9,000万ドルとなりました。こうした結果は同部門の戦略が引き続き上手く実施されていることを反映しており、M&A事業は勢いを維持し米国とヨーロッパ、中東及びアフリカ(EMEA)²におけるシェアが拡大しています。

グローバル・マーケッツ部門は、第3四半期、債券事業が振るいませんでしたが、これは前年同期の水準が高かったことや、マクロ事業および新興国市場事業の合理化の決定による影響を反映したことも要因でした。しかし、これらの取り組みによる恩恵は費用面において目に見える形となり、2018年末までの調整後ベース*営業費用48億ドルの達成に向けては順調に推移しています。グローバル・マーケッツ部門は、生み出された営業レバレッジを通じて2019年はリターンの上昇が予想されます。損益分岐点の低下、エクイティ事業の回復、約2億5,000万ドルの資金調達コスト低下が大きな追い風になると期待されます。

当グループは第3四半期も、コントロール可能な事項、特にコストと資本については、引き続き規律ある実施と達成に努めています。当グループの12四半期計画のうち11四半期が完了し、40億CHF¹の純費用削減、すなわち目標の96%を達成しています。調整後ベース*の営業費用基盤は2015年末の212億CHFから年ベースで168億CHF¹に変貌を遂げ、年末までに170億CHF未満に抑えるという目標に向かって着実に歩みを進めています。費用削減計画の成就是、当グループが損益分岐点を引き下げることで強靱性を高める上での鍵となるものでした。厳しい四半期に利益を生み出すことができたという事実は、本戦略の成功を示すものです。

脚注

* 調整後業績を指します。調整後業績は非 GAAP の財務指標です。最も直接的に比較可能な米国 GAAP 財務指標に対する調整後業績の差異調整については 11 月 1 日に発表された英語版メディアリリースの Appendix をご参照下さい。

1. 2015 年の為替レートは一定と見なしています。
2. 出典:ディールロジック(米国および EMEA)による 2018 年 9 月 30 日に終了した期間の情報
3. 2015 年上半期におけるスイスカードの税引前利益 2,500 万 CHF を除きます。
4. スイス・ユニバーサル・バンク部門、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門およびアジア太平洋部門のウェルス・マネジメント・アンド・コネクテッド事業内のプライベート・バンキング事業を指します。
5. 2015 年上半期におけるスイスカードの純利息収益および経常手数料収益 1 億 3,300 万 CHF を除きます。
6. 2015 年上半期におけるスイスカードのトランザクションおよびパフォーマンス・ベース収益 1,500 万 CHF を除きます。
7. 2015 年上半期におけるスイスカードの純収益 1 億 4,800 万 CHF を除きます。